

平成23年度
実施事業

事務事業名	特別保育事業（あそびの広場）
-------	----------------

区分	No	名称
章	1	やさしさと共生するまち
節	1	安心して子どもを生み育てられるまちをつくる
施策	1	子育ての不安と負担の軽減
小分類	1	地域での子育て支援
主要な施策	4	子育てについての学習、体験機会の充実
事務事業番号	001	事業開始年度 平成 10 年度 事業終了年度 平成 - 年度 会計種別 一般会計

部 名	保健福祉部	グループ名	子育てG
-----	-------	-------	------

事務事業の概要

《Plan・Do》

目的	(事務事業の実施目的を具体的に記入してください)
	就学前の乳幼児とその保護者を対象に、子育てについて学習、体験の機会の充実を図ることにより親子の交流を深めることを目的とする。
事業内容及び実績	(事業内容及び平成23年度の実績を具体的に記入してください)
	子育て支援センターの行事日の事業として、年齢別のグループごとに、親子のあそびなどの指導及び親子交流目的とする「あそびの広場」を開催する。
今後の方向性	(次年度以降の事業展開における改善など今後の方向性を具体的に記入してください)
	親子のふれあいや親子同士の交流の場を提供し、児童の健全育成及び保護者の精神的負担の軽減を図っていく。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称を全て記入してください)
	登別市子育て支援センター条例

事業費（財源内訳）の推移

《Plan・Do》

区分		単位	H22年度 決算	H23年度 決算	H24年度 当初予算	H25年度 見込	H26年度 見込
国庫支出金	名称 子育て支援対策交付金（H22まで次世代交付金）	千円	228	220	220	220	220
道支出金	名称	千円					
地方債	名称	千円					
その他	名称	千円					
一般財源	名称	千円					
事業費 合計			228	220	220	220	220

指標の推移

《Check》

区分		単位	区分	22年度 実績	23年度 実績	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果 指標	開催回数	回	目標値	14	14	14	14	14
			実績値	14	17			
	延べ参加者数	人	目標値	320	320	320	320	320
			実績値	268	257			

現況		《Check》
現状の状態、問題点、課題等《事業前》	具体的な対策、解決の方向性《事業後》	
<p>同じ年齢の子ども達が集まり、集団による活動を行い、保育所や幼稚園での生活につながるような内容となっている。</p>	<p>活動内容の充実を図りながら子ども同士だけではなく、親同士の交流の広場となるよう努めていく。</p>	

担当グループによる事務事業評価の内容（複数回答可） 《Check》

1. 事務事業の妥当性について		
市が事業主体として実施していくべき妥当性の高い事業ですか？	市が主体に行うべき事業である	判断理由及びその他所見 年齢に応じた遊びの指導や親子同士の交流の場の提供は、特に、家庭内保育者にとって有効な事業である。
	民間(事業者、市民団体等)でも実施可能である	
	国、道、他団体等との連携や広域化が可能である	
	国、道、民間等の事業と重複・類似している	
2. 事務事業の必要性について		
市民ニーズの状況等から勘案して、必要性の高い事業ですか？	市民、団体等から具体的な要望がある	判断理由及びその他所見 参加者数からも当事業に対するニーズの高さから必要性の高い事業と考えられる。
	市民アンケートの結果から必要性が高い	
	社会情勢、地域事情等から必要性が高い	
	市民の大部分が関連することから必要性が高い	
3. 事務事業の効率性について		
事業内容とコスト(事業費)のバランスがよい効率性の高い事業ですか？	低予算、少労力で高い効果をあげている	判断理由及びその他所見 子育て支援センターの事業の一つで、効率性が高いと考えられる。
	市で実施するほうが民間委託より効率性が高い	
	多額の経費や労力を要するがやむを得ない	
	将来的に効率性を向上できる	
4. 事務事業の成果について		
目的を達成するための成果はあがっていますか？	成果指標の向上が見られる	判断理由及びその他所見 本事業の目的である、情緒・情操面の発達の一助という点を言えば、成果があがっていると考えられる。
	市民、団体等の声から成果を感じられる	
	目に見える形で成果があがっている	
	成果の把握は困難である	

担当グループによる評価 《Check》

維持	左記の評価を選択した具体的な理由(根拠)	乳幼児期は情緒・情操面において大切な形成時期であり、就学前に本事業を実施することは有効な手段と考えるので、引き続き継続が必要な事業である。
----	----------------------	---

行政評価会議による評価 《Check》

維持	備考
----	----